

体験が生徒を変える

～防災活動をツールに地域交流を取り入れた高齢者分野の実践～

兵庫県立伊和高等学校 教 諭 西岡 千 歳
兵庫県立香寺高等学校 主幹教諭 岡本 由佳子
兵庫県立夢前高等学校 教 諭 梶木 蒔生里

1 はじめに

昔は高齢者と一緒に暮らしている子どもが多く、自然に高齢者について学び、自分が高齢になった時のことも考える機会があった。また、行事や家族同士の関わりから、地域の繋がりも深かった。しかし、現代は、核家族化が進み、高齢者と一緒に暮らしたことがない子どもが多く、また、地域との繋がり希薄になってきており、身近な高齢者と触れ合う機会は少なく、高齢者について学ぶ機会が減ってきている。人生 100 年時代を迎えると言われている今、高齢者について自分のこととして考えさせる必要がある。

高等学校では、「家庭基礎」の採用が多くなり、授業時間数が減少したため、高齢者分野において生徒の十分な理解を図るためには、今まで以上に工夫して授業を行う必要がある。

新学習指導要領には「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生徒に生きる力を育むこと」とある。また、「実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成すること」更に、「生活支援に関する基礎的な技能を身につけることができるよう体験的に学習を行うこと」、「家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあって生活することの重要性について考察すること」があげられている。

そこで、生徒が知識として理解するだけでなく、実際に高齢者と触れ合うことにより、これからの生活の中で地域の一員として自ら考え、判断し、行動できる力を身につけさせることを目指し、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てることとした。

また、その際、阪神淡路大震災を経験した兵庫県の地域的な課題である「防災」をツールとして、地域の高齢者と生徒が触れ合い、実践的・体験的に学ぶことの意義について考察する。

2 研究のねらい

- (1) 教員と生徒に対して高齢者分野の授業や高齢者に関する内容の意識調査を実施し、教員と生徒のニーズを把握する。
- (2) 高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉・介護などに関心を持ち、将来の自分の問題としてとらえることのできる学習活動を考える。
- (3) 実践的・体験的な学習活動を効果的に取り入れる方法を研究し、提案する。
- (4) 授業に体験的な活動を取り入れることにより、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を育てる。

3 研究計画

- (1) 教員への事前アンケートの実施と分析
- (2) 生徒への事前アンケートの実施と分析
- (3) 指導計画および実践
- (4) 生徒への事後アンケートの実施と分析
- (5) まとめと今後の課題

4 研究内容

(1) 教員への事前アンケートの実施と分析

- ア 調査目的 学区内の各校における高齢者分野の実態把握
 イ 調査対象 西播磨・姫路地区の高等学校教員 22 名
 ウ 調査時期 平成 29 年 2 月
 エ 調査内容 高齢者分野の授業について
 オ 調査結果 (抜粋)

図 1 高齢者分野に
かける時間

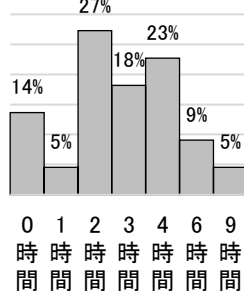


図 2 高齢者分野に配
当する時間は適切か

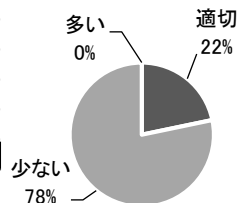


図 3 授業に取り入れている実習

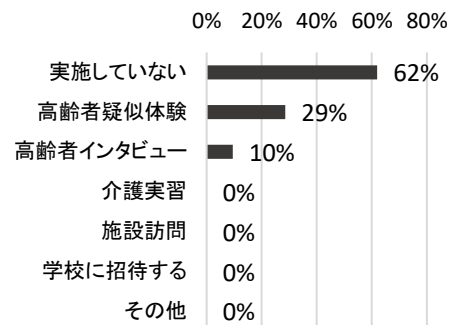
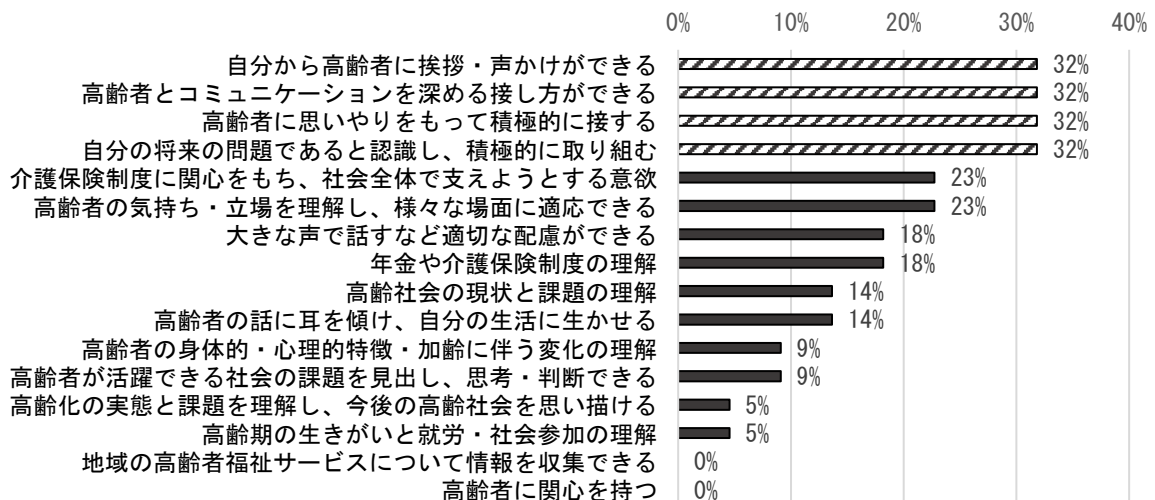


図 4 今後さらに身に付けさせたい力



カ 結果分析

- ・ 「家庭基礎」の中で高齢者分野に使う時間は約 8 割が「少ない」と感じており、その時間は 2・3・4 時間が 7 割弱を占めている。(図 1、図 2)
- ・ 「家庭基礎」の授業において、「高齢者体験」「介護実習・体験」などの実習は、「実施していない」が 62%と多い。(図 3) 実習では「高齢者に対する理解が深まる」効果があると思っ
てはいるが、「時間がない」「設備が整っていない」などの理由で実施できていない。
- ・ 現在の時間数では「コミュニケーションを深める力」や「高齢者が活躍できる社会の実現に向
けて課題を見出し、思考・判断する力」が身につけていないと感じている。
- ・ 教員が、高齢者分野の指導を通して今後さらに生徒に身に付けさせたいと考えている力は以
下の 4 つにまとめることができる。(図 4)
 - 1 自分から挨拶・声かけをする力
 - 2 コミュニケーションを深める力
 - 3 思いやりを持って積極的に接する力
 - 4 高齢者に関する問題は、自分の将来の問題と認識し、積極的に取り組む力

(2) 生徒への事前アンケートの実施と分析

ア 調査目的 各校生徒における高齢者分野への意識と実態把握

イ 調査対象 研究校3校の生徒344名（香寺200名、夢前109名、伊和35名）

ウ 調査時期 平成31年4月～5月

エ 調査内容 高等学校入学時での高齢者分野の知識と経験及び意識について

オ 調査結果（抜粋）

図5 高齢者と暮らしていますか？

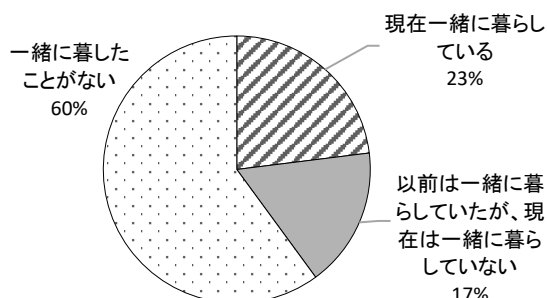


図6 高齢者と話す機会は？

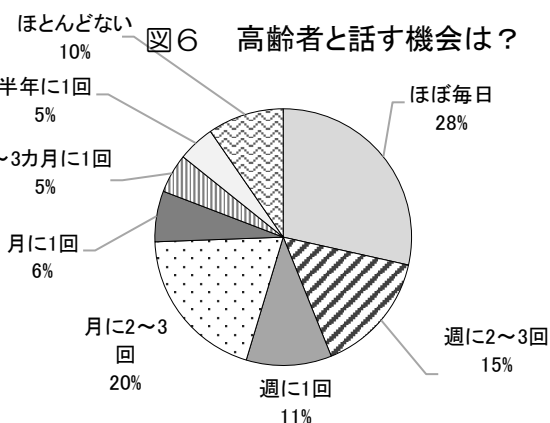


図7 高齢者と関わった経験は？

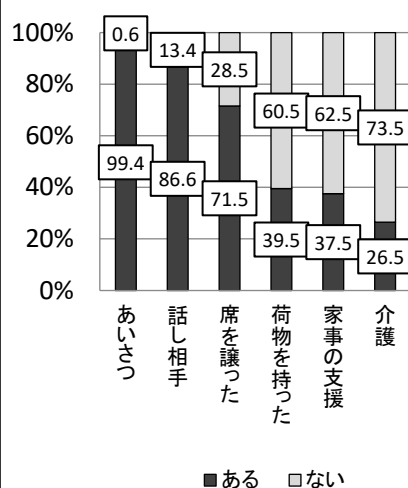


図8 高齢者と接するときができる？

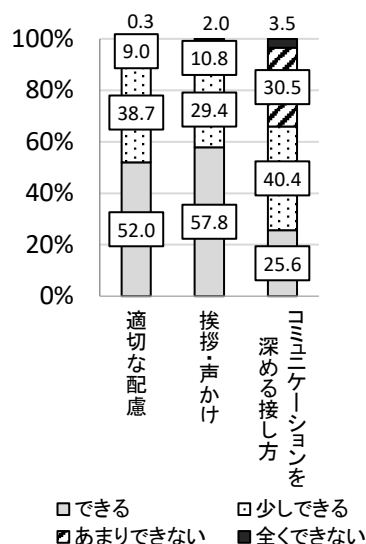


図9 高齢者をどう思ってる？

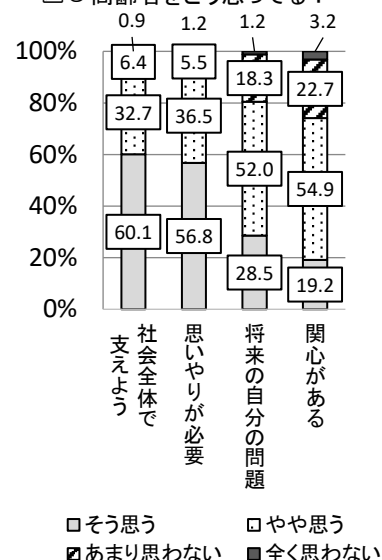


図10 高齢者のことを知ってる？

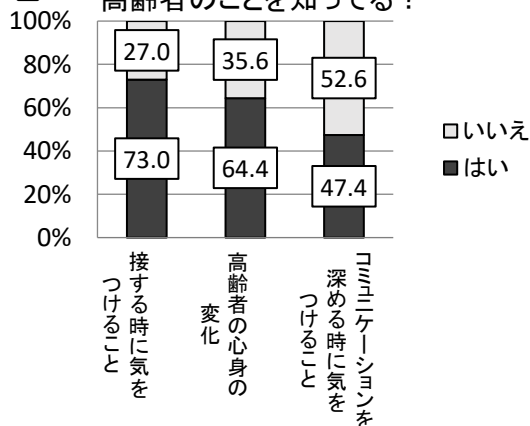
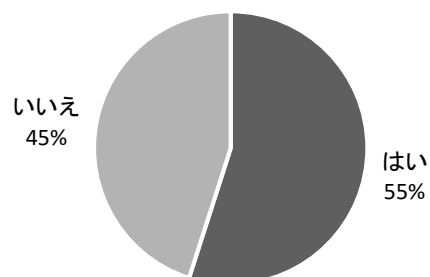


図11 自分が高齢者になった時のことを考えたことがある？



カ 結果分析・考察

- ・ 高齢者と「一緒に暮らしている」「一緒に暮らした経験がある」生徒よりも「一緒に暮らしたことがない」生徒のほうが多い。(図 5)
- ・ 「毎日」高齢者と話す生徒は約 3 割、「1 年間ほとんどない」生徒も 1 割いた。(図 6)
- ・ 「あいさつ」や「話し相手」は、ほとんどの生徒が経験している。「席をゆずった」は 7 割「荷物を持った」や「家事の支援」は 4 割いた。(図 7)
- ・ 「高齢者と接するときに適切な配慮ができる」、「自分から高齢者に挨拶・声かけができる」生徒は 9 割と多い。それに対して「高齢者とコミュニケーションを深める接し方ができる」生徒は 7 割と少ない。(図 8)
- ・ 「高齢者を社会全体で支えていかなければならない」「高齢者に思いやりを持って積極的に接しようと思う」と思っている生徒は 9 割、「自分の将来の問題であると認識し、積極的に取り組もうと思う」が 8 割、「高齢者に関心がある」と考える生徒が 7 割いた。(図 9)
- ・ 「自分が高齢者になった時のことを考えている」生徒は半数いた。(図 11)

以上の結果より、高齢者と一緒に暮らした経験がなく、話す機会も少ないため、自分が高齢者になった時のことを考えておらず、自分のこととして捉えていない。「高齢者とコミュニケーションを深める接し方」が難しいと感じており、自分から行うことは「あいさつ」程度の生徒が多い。

そこで、実際に高齢者と交流をすることでコミュニケーションを深める接し方を身につけ、思いやりをもって積極的に接することができる指導内容を考えたい。

(3) 指導計画及び実践

ア 共通の指導内容を設定

事前アンケートの結果より、以下の 3 点を踏まえて指導内容を検討した。

- 1 高齢者とふれあう機会となる
- 2 短い時間でも学習成果が得られる
- 3 介護用ベッドなど設備がない学校でも取り組める

実態調査	知識・理解	体験 (生徒同士)	体験を深める 高齢者と交流	振り返り
事前アンケート	(ア) 高齢者について知る	(イ) 高齢者疑似体験	(ウ) 防災アンケート (エ) 高齢者と交流	振り返り 事後アンケート

(ア) 高齢者について知る

高齢者の心身の特徴、高齢者取り巻く社会環境等について理解する。

(イ) 高齢者疑似体験

高齢者の身体的特徴を体験的に学習するため、高齢者疑似体験を行う。ヘッドホン、白内障ゴーグル、腰が曲がったまま伸ばせない姿勢保持ベルト、肘が曲がったまま伸ばせない装具などをつける生徒と補助の生徒 2～3 人が一組になり、交替で階段等を歩く。



(ウ) 防災アンケート

防災アンケートは、生徒が身近な高齢者とコミュニケーションをとるきっかけにすることをねらいとしている。そのため、アンケート用紙を渡して書いてもらうのではなく、質問をしながら、会話する形式になっている。積極的に会話することが苦手な生徒でも、自然にコミュニケーションがとれるよう工夫した。この防災アンケートで、高齢者とふれあう機会となるよう工夫にする。

(エ) 高齢者との交流

各校で授業を実践するにあたっては、「高齢者と防災」をメインテーマに置き、実施時期を統一せず、実施内容も、各校の実情にあわせて行う。

防災活動をツールとして交流することのメリットは以下の4つが考えられる。

- 1 学校行事の時間が使える
- 2 教科「保健体育」との教科横断が可能である
- 3 「食」「住居」「共生社会」との領域横断が可能である
- 4 高齢者にとって、参加するメリットがある活動である

イ 各校での実施内容

(ア) 伊和高校（全体7h）

- ・交流前の事前指導（高齢者理解）を丁寧に行った
- ・「高齢者のイメージ」をグループで話し合い、クラス内で発表を行った（KJ法）
- ・高齢者の心の疑似体験「大切なものを失うきもち」をグループで実施し、クラス内で発表した
- ・地域の高齢者との交流（グループづくりでコミュニケーションを深める）

知識・理解 3h	体験（生徒同士） 1h	体験を深める 高齢者と交流 2h	振り返り 1h
ワークシート ・高齢者に関する基礎知識 ・ 高齢者のイメージ	大切なものを失う気持ち 高齢者疑似体験	防災アンケート グループづくり 防災食実習	まとめと課題の振り返り
高齢者のイメージ グループ→クラス （KJ法）	高齢者の気持ちを、体験を通して考える 自分たちに支援できることは何か考える	・防災アンケート(宿題) ・地域の高齢者との交流 ・グループづくり ・防災食実習	ワークシートで振り返り
知識・理解 思考・判断・表現 関心・意欲・態度	知識・理解 技能 関心・意欲・態度 思考・判断・表現	思考・判断・表現 関心・意欲・態度	思考・判断・表現 関心・意欲・態度

	地域の高齢者との交流授業
1	地域の高齢者とゲームをしながら誕生日順に並んだ後、グループに分かれグループ内の人の名前をすべて覚えながら自己紹介をした。
ー	ポリ袋を使った防災食調理（手軽で、災害時にも使える） ※食物分野の授業の中で実施



高齢者のイメージ



地域の高齢者との交流地域



高齢者とポリ袋を使った防災食調理

高齢者と交流する前の事前指導を丁寧に行った。

高齢者のイメージについて、KJ法を用いて個人・グループで考え、クラス内で発表を行った。身近に高齢者がいない生徒は、イメージが思い浮かばなかったが、他の生徒の意見を聞く中で、様々な高齢者のイメージを知ることができた。このことにより、自分の意見だけでなく他者の意見を聞くことで自分のものとすることができ、深めることができた。KJ法は、短時間で多くの意見を共有することができ、効果的であった。また、高齢者の心の疑似体験として、「大切なものを失うきもち」を考えた。家族、友達、健康、お金など「自分にとって大切なものは一つでも失うと悲しい気持ちになる」、「一つ失うと連鎖的に失う」など気付くことができた。このことで、高齢者の心の変化について、

理解が深まった。高齢者疑似体験では、高齢者への配慮の必要性に気づき、高齢者に優しく接しようという意欲や態度を身に着けることができた。これら高齢者理解について丁寧に指導したことで、事前に高齢者についてしっかり理解した上で交流を行えたことは、より高齢者を身近なものとして深い学びにつなげるという点で効果的であった。

地域の高齢者に防災アンケートを実施したり、交流をしたことで、コミュニケーションの苦手意識がなくなり、「これからはもっと地域の高齢者に声かけをしよう」という積極的な意見が多かった。また、「足の悪い高齢者にそっと椅子を差し出す」といった行動から、高齢者に対する配慮や思いやりも自然と行動に出せていた。また、学校が避難所になった時の問題点も考えるなど、自分ができることを考えるきっかけとなった。参加した地域の高齢者からも、「いい取組だ」と高評価をいただいた。

(イ) 香寺高校（全体 4h）

- ・教科「保健体育」との教科横断的な取組を実施した。
- ・「食」「住居」の分野で領域横断的な取組を実施した。
- ・高齢者と協力して課題に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びを実践した。

知識・理解 1h	体験（生徒同士） 1h	体験を深める 高齢者との交流 1h	振り返り 1h
ワークシート ・高齢者理解 ・高齢社会	高齢者疑似体験	防災アンケート、心肺蘇生法、家具の固定、防災食調理、高齢者と課題解決	グループで発表
高齢者に関する基礎知識を理解する	高齢者疑似体験を行い、高齢者の気持ちを、体験を通して考える 自分たちに支援できることは何か考える	・防災アンケート実施（オリジナルの質問も考えて聞く） ・地域の高齢者との交流授業	まとめ（高齢者の学びを振り返る）
知識・理解 関心・意欲・態度	知識・理解 関心・意欲・態度	技能 思考・判断・表現 関心・意欲・態度	関心・意欲・態度 思考・判断・表現

・高齢者との交流

教科横断 （保健体育）	領域横断 （住居分野）	領域横断 （食分野）	高齢者と一緒に 課題解決
「応急手当の実践」 ～心肺蘇生法を身に つけよう～	「家具の配置と固定 の工夫」～家具の転 倒防止まちがいさがし～	「災害時の防災食」 ～ポリ袋を使って調 理をしよう～ メニュー：ご飯、ツ ナのジャガ煮	「災害時の避難所」 における生活と高 齢者」～学校が避難 所になったときの問 題点を話し合おう～



避難所の問題点を話し合う



ポリ袋を使った防災食



家具の配置と固定の工夫



心肺蘇生法



合同避難訓練

近隣の自治会から高齢者をお招きした交流では、ポリ袋を使った防災食の調理実習を行い、健康や環境に配慮した食生活について理解させるだけでなく、高齢者の健康を意識した実習を行った。また、「住居」分野では、家具の固定方法を学び、防災面だけでなく、高齢者の心身の特徴について理解を深めた。保健体育の教員に、授業の目的を説明し、協力を得て、高齢者とともに心肺蘇生法を学習し、教科を横断して交流することができた。学校が避難所になった場合に起こりうる問題点を高齢者と共に考えた授業では、地域で高齢者を支えていく存在になろうとする意欲を育て、高齢者に関わる問題は自分の問題だと認識し、主体的に取り組むことのできる能力と実践的な態度を身につけることができた。

参加した高齢者から、「生徒はみんなとてもかわいかった」「とてもいい授業だと思う」「とてもいい機会になった」などの感想をいただいた。地域開かれた学校作りという点でも有意義な授業になった。

生徒は、高齢者に校内を案内する時に、高齢者からでる質問に答える中で、日頃自分たちが意識していない当たり前のことが、高齢者にとっては困ることになるのだと気がついていた。その、高齢者と問題点について話し合う中で自分の考えを明確にしたり、考えを深めたりしていた。また、高齢者と協同で課題に取り組むことで、自らの考えを広げ深める学びになった。

(ウ) 夢前高校（全体 8h）

- ・事前に共生社会について学び、立場によって価値観や物事のとらえ方は異なることを学んだ。
- ・避難所運営ゲーム（通称 HUG）で地域高齢者の方々と交流した。
- ・交流授業 2h のうち、1h を学校行事に繋げることで、交流時間を家庭基礎以外で確保した。

知識・理解 3h	体験（生徒同士） 1h	体験を深める 高齢者と交流、準備 3h	振り返り 1h
「立場によるものさし」 高齢者に関する基礎知識	高齢者疑似体験	防災アンケート HUG、防災講演会	クラスごとに ワークシート
・立場による視座の転換 個人→グループ	高齢者の気持ちを、体験を通して考える 自分たちに支援できることを考える	・防災アンケート（宿題） ・交流授業の準備 HUG 準備、カード製作 ・地域の高齢者と交流 HUG、防災講演会	ワークシートで振り返り
知識・理解 思考・判断・表現 関心・意欲・態度	知識・理解 技能 関心・意欲・態度 思考・判断・表現	思考・判断・表現 関心・意欲・態度	思考・判断・表現 関心・意欲・態度

地域の高齢者との交流授業	
1	避難所運営ゲーム（通称 HUG）を行った。ゲーム終了後、班と全体で振り返りの時間を持った。
ー	EARTH 員の中玉利先生による『避難所でもできるリラクゼーション講演』と、兵庫県立大学大学院の青田教授による『防災講演』を行った。終了の際には、生徒の手作り防災カードを地域高齢者へ手渡した。



避難所運営ゲーム（HUG）



リラクゼーション

避難所運営ゲーム（HUG）は、カードを用いて避難所の疑似運営を行うものである。本校では、生徒 6 名、高齢者 3 名、進行・補助役 1 名を 1 班としてゲームを進めた。進行・補助役は、本校職員・兵庫県立大学大学院生・EARTH 員の内 1 人が務める。夢前高校周辺で地震が起きたと想定し、プレーヤーである生徒と高齢者は、様々な事情や個性を持つ避難者（避難者カード）や、予期せぬ出来事（イベントカード）の対応を、対話を重ねながら考え、避難所・夢前高校の運営を行った。カードは静岡県の原版 HUG カードを元に、高校生でも理解しやすい内容、高齢者でも見やすい文字の大きさ、夢前高校周辺地域の具体的な地名や施設名を入れるなど、参加者や夢前高校周辺地域の実態に応じたものに作り直した。

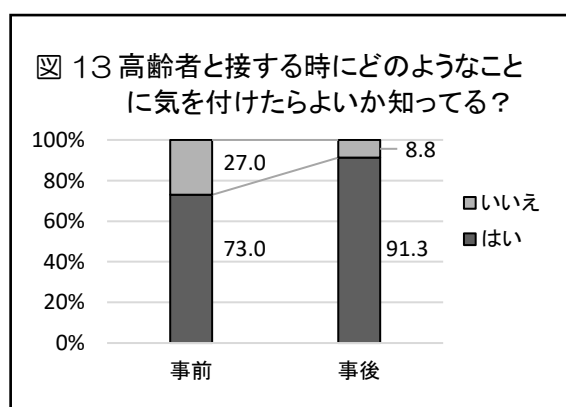
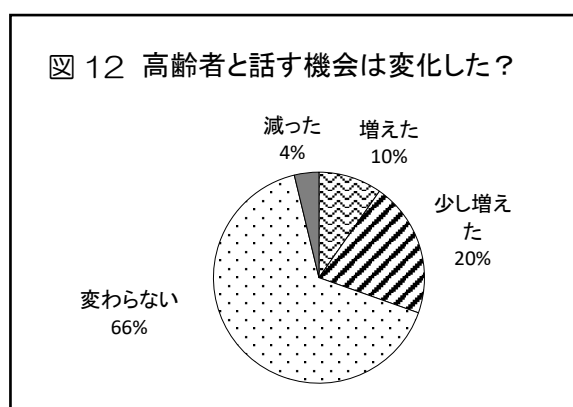
予め交流授業を高齢期の学習の最終目標としたことで、生徒の事前学習への取組は大変主体的なものとなった。交流授業後のアンケートから、生徒は高齢者をより身近に感じ、高齢期は自分や家族の未来の姿であることを実感した者が多いことが伺えた。また、高齢者の方へ自分ができることを考える内容も多かった。高齢者の方からは、高校生との繋がりに対する前向きな感想が多く、「避難所を協力して運営する」という共通目標があったことで、早くに距離が縮まったという感想も多かった。EARTH の先生方、兵庫県立大学大学院の方々、高齢者の方々など年齢・校種を超え、そして教科を超えて学校行事へ繋げたことで、体験的で意義深い学びを実現できた。

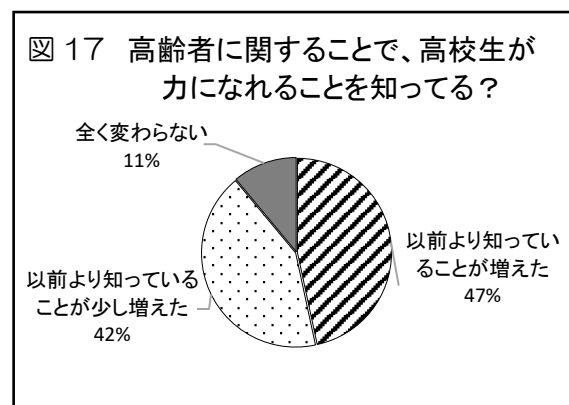
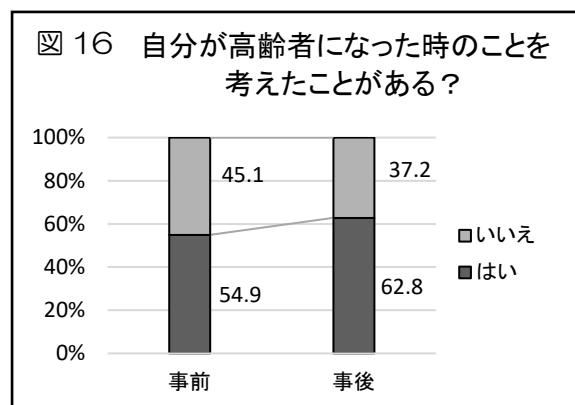
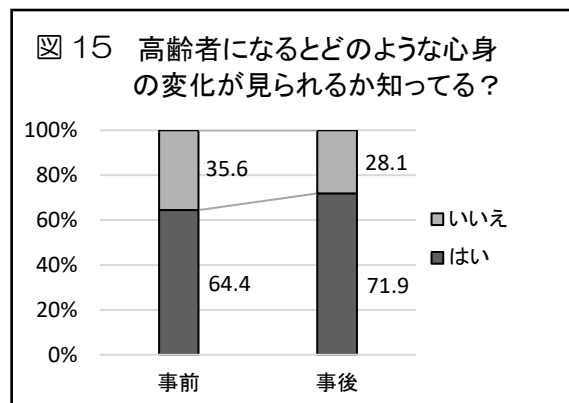
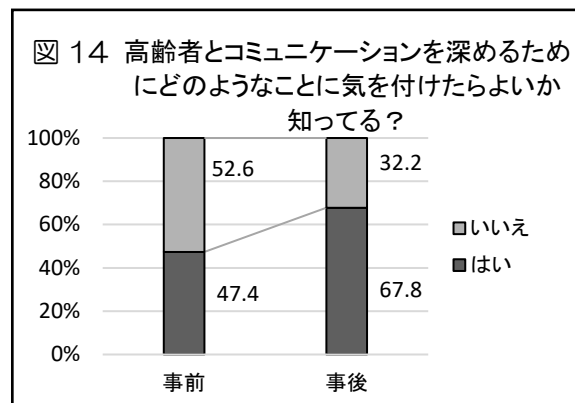
ウ 使用教材

- ・ 福祉・介護学習プログラム（兵庫県社会福祉課）
「ひょうごの高齢化」「高齢者を知る（高齢者を体験しよう）」「認知症」
- ・ 知っておきたい 高齢者のための避難のキホン（東京法規出版）
- ・ 家具の転倒・落下を防止しよう（東京法規出版）
- ・ ご近所のご協力で 災害時 要援護者をまもりましょう（東京法規出版）
- ・ 高齢者疑似体験グッズ（香寺高校、社会福祉協議会よりレンタル）
- ・ 避難所運営ゲームセット（静岡県）
- ・ 避難所運営ゲームセット（静岡県版を編集、夢前高校版）
- ・ 大人のおしゃれ手帖特別編集 シニアのための防災（宝島社）

(4) 生徒への事後アンケートの実施と分析

- ア 調査目的 授業実施後の意識変化と実態調査
- イ 調査対象 研究校 3 校の生徒 320 名（香寺 189 名、夢前 101 名、伊和 30 名）
- ウ 調査時期 令和元 10 月～令和年 11 月
- エ 調査内容 授業実施後の状況について
- オ 調査結果（抜粋）





カ 結果分析・考察

- ・ 高齢者と話す機会は 3 割の生徒が授業前より少し増えた。(図 12)
- ・ 「高齢者と接する時にどのようなことに気を付けたらよいか」(図 13)「高齢者とコミュニケーションを深めるためにどのようなことに気を付けたらよいか」(図 14)「高齢者にはどのような心身の変化があるか」(図 15) などほとんどの項目において、授業前よりも知識が増えた。
- ・ 「自分が高齢者になった時のことを考えたことがある」(図 16)が増えたことから、授業前よりも高齢者のことを自分のこととして捉えていることがわかる。
- ・ 「高齢者に関することで、高校生が力になれることを知っている」(図 17)で、授業前より知っていることが「増えた」「少し増えた」と答えた生徒は 9 割だった。
- ・ 生徒の感想から、実際に体験した内容だったからこそ、より身近なものとして印象深く心に残ったようであることが伺えた。

以上の結果より、体験・交流を行ったことで、生徒は高齢者を身近に感じ、高齢者問題は他人事ではなく自らの将来の問題であると意識が変化した。そして高齢者について具体的に考えるようになった。生徒たちは力になれることは何かなど、多くのことを自ら考え、取り組んだ。自分たちが高齢者の力になれることを知り、今後少しでも何かの役に立てればという思いでいる。

今後も様々な人とふれあう機会を活用し、より多くの方々とコミュニケーションをとれるような取り組みを積極的に行いたいと考えている。

(5) おわりに

ア まとめ

- ・ 「防災」をツールにすることで、教科と領域を横断した高齢者分野の授業ができた。授業時間が少ない中でも、交流を通して、主体的・対話的で深い学びが実現した。(香寺)
- ・ 高齢者理解において様々な疑似体験をさせ、丁寧に指導した上で交流を行ったことで、高齢者の気持ちを深く理解し、将来の自分の問題だと認識できるようになり、自分や家庭、地域の生活を主体的に関わろうとする意欲や態度が身についた。(伊和)
- ・ 予め交流授業を目標に掲げたことで、生徒は当日の高齢者との関わり方を具体的に想像し、自

ら課題を発見していた。また、実際の交流の中でその課題に対する答えを見つけていた。体験的な授業を取り入れたことによって、生徒の学びへの主体性が一層深いものとなった。(夢前)

・「家庭基礎」の授業の中で高齢者分野にかける時間が少なく、介護用ベッドなど設備も整っていない中で、実習や体験を行うことは難しいが、教科を超えての取組や学校行事に盛り込むなど、工夫をすることで体験を行うことは可能であった。

・高齢者の心身の特徴と生活に関心をもち、将来の自分の問題としてとらえることができるよう、実践的・体験的な学習活動を取り入れた。体験的に行うことで、生徒は、高齢者を将来の自分の姿であると認識し、高齢者に関することは自分の問題でもあると意識が変わった。さらに、高齢者とともに共通の課題に取り組んだことで高齢者の心身の特徴やコミュニケーションの深め方などへの理解が深まった。以上より、直接高齢者と触れ合う機会が作れたことは、地域社会に参画し、自分や家庭・地域の生活を主体的に問題解決しようとする力を養う上で、大変有意義であった。

イ 今後の課題

・グループで話し合い、自分とは違う意見を聞く機会を多く設けたことで、コミュニケーション能力は少しずつ高まっていった。ただ、「コミュニケーションを深める力」を身につけることは簡単ではなく、多くの体験が必要である。

・高齢者に関する事柄を自分のこととして認識し、主体的に問題を解決しようとする力、コミュニケーション能力の向上を目標として、今後も教科を超えて、また、領域を超えて学校や地域の実態に応じて、様々な体験活動を積極的に取り入れたい。

ウ 提案

・コロナ禍で考えられる体験学習

夏休みや冬休みの課題として、電話での防災アンケートを継続して実施する

個別に調理が可能な「防災食」を、コロナ禍での調理実習として提案する

高齢者福祉施設とテレビ電話で交流する

代表生徒に高齢者疑似体験セットを装着させる

・領域横断的な取組

「防災食」(食生活)、「家具の配置と固定の工夫」(住生活)、「新聞紙で作る防災グッズ」

(衣生活)、「災害後の消費行動と意思決定」(消費生活)

・ホームプロジェクトや学校家庭クラブにつなげる

〈参考文献等〉

- ・高齢者白書(内閣府) <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>
- ・福祉・介護学習プログラム(兵庫県社会福祉課)
- ・活断層を中心とした地質教材の作成-山崎断層帯と姫路平野 西影裕一(独立行政法人日本学術振興会)
- ・知っておきたい 高齢者のための避難のキホン(東京法規出版)
- ・家具の転倒・落下を防止しよう(東京法規出版)
- ・ご近所のご協力で 災害時 要援護者をまもりましょう(東京法規出版)
- ・大人のおしゃれ手帖特別編集 シニアのための防災バイブル(宝島社)
- ・高等学校学習指導要領解説 家庭編 平成22年1月、平成30年7月(文部科学省)
- ・高等学校学習指導要領 比較対象表(文部科学省)
- ・ニューサポート 新学習指導要領特別号 高校家庭(東京書籍株式会社)
- ・小中学校学習指導要領 新旧対照表(家庭、技術・家庭)(東京書籍株式会社)
- ・子どもの頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究 報告(国立青少年教育振興機構)
(<https://www.niye.go.jp/>)
- ・イツモ防災教材 埼玉県とNPO法人プラス・アーツ
(<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/syougakusei.html>)

地域の一員としてあなたができること

() 年次 () 組 () 番 名前 ()

災害が発生したとき、多くの人が救助を求める事態になります。警察や消防がすぐに救助に駆けつけられるとは限りません。

高齢化が進んでいる地域や、日中は勤務のために若い人たちがいない地域があります。そのため、平日の昼間に災害が発生した場合、救出の要となる地域の力が十分に発揮できない可能性があります。高校生のあなたが自らの命を守ることはもちろん、地域の一員としてできることを考えてみましょう。

(1) 身近な高齢者に質問してみましょう。アンケート用紙への記入は高校生のあなたがしてください。

●質問に答えてくださった方とあなたの関係

～アンケートを始めます～

- ① 年齢を教えてください。() 歳。性別 (男・女)
- ② ご家族の構成を教えてください。
 1. 単身
 2. 夫婦のみ
 3. 二世帯(親と子)
 4. 三世帯(親と子と孫)
 5. その他()
- ③ あなたは、家族や身近な人と、災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めていますか。
 1. はい
 2. いいえ → 「いいえ」とお答えになった方には、災害用伝言ダイヤルについて説明しましょう。



災害用伝言ダイヤル「171」

※携帯電話・PHSからも利用できます。
(一部の事業者を除く)

伝言を録音するとき

1 7 1 - 1 -

被災地内の固定電話の番号
携帯電話・PHSの番号

- ① 「171」をダイヤルします。
- ② 音声案内に従い、「1」をダイヤルします。
- ③ 自分の安否について家族や知人が聞く可能性の最も高い電話番号(例えば自宅の電話番号)を必ず市外局番(0XX-XXX-XXXX)から順にダイヤルし、音声案内にしたがって安否等のメッセージを録音してください。

④ 避難所の場所を知っていますか。

1. はい
2. いいえ → 「いいえ」とお答えになった方には、避難所の場所を調べてお伝えしましょう。あなたの避難所は()です。

スマホを使って今すぐ調べましょう。手順は以下の通りです。

1. Yahoo! JAPAN 避難所マップにアクセスする
<https://crisis.yahoo.co.jp/shelter/map/>
2. 「地図から探す」もしくは「一覧から探す」で答えてくださった方の地域を検索する
3. 近くにある避難場所や避難所をお伝えする

⑤ 避難所までどうやって行きますか。

⑥ 避難所のあたりまで歩いてどれくらいかかりますか(身支度や荷造りなどの準備時間を含む)。

1. いる

--

1. していない

--

1. 用意していない

--

1. ある

1. ある

- | | |
|---|---|
| • | • |
| • | • |

- | | |
|---|---|
| • | • |
| • | • |

- | |
|--|
| |
|--|

- | |
|--|
| |
|--|

- | |
|--|
| |
|--|

.....

- | |
|--|
| |
| |
| |

- | |
|--|
| |
| |
| |
| |